

## 第2回庄内町振興審議会産業建設分科会 会議録

- 1 開催日時 平成30年3月20日(火) 13時30分～15時30分
- 2 開催場所 庄内町役場 会議室
- 3 出席委員 佐藤多佳夫、大滝正博、河村奈美、高橋聡、竹嶋碧
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 樋渡主査兼企画調整係長、佐藤

- 
- 1 開 会 (13:30)
  - 2 分科会長あいさつ
  - 3 協 議

(1) 第2次総合計画について(ヒアリング)

### ●商工観光課

《出席者》

- ・佐々木平喜商工観光課長
- ・松澤良子商工観光課長補佐兼観光物産係長
- ・高梨美穂主査兼新産業創造係長
- ・中野正樹商工労働係長

《ヒアリング内容》

まち歩き参加者数について、制度内容の変更による減少がみられるが、どのような変更があったのか。また、新産業創造館や観光・交流人口等、既に目標値を上回っている項目に対して、今度、どれくらいの目標値を考えているか。

飲食店や個人店を利用した方々の人数がどこにもカウントされていない。このことについて、全店にお願いするのは難しいとしても、サンプルをとってある程度の数把握を行うことはできないか。

人手不足が深刻になっている中で、町としてどのように対策を講じる予定か伺いたい。

【会 長】 商工観光課の方から、限られた時間ですがヒアリングを行いたいと思います。まずはまち歩きについての説明をお願いしたい。

【商工観光課長】 ご質問頂いた内容について、当課の現状もあわせて、説明したいと思います。まずは最初にまち歩きの状況について、課長補佐の方から説明差し上げます。

【商工観光課長補佐】 H27から参加者が減少した要因については、システムが変更され、参加者のメリットが減ったため、かなりの方が参加しなくなったと考えております。また、H29からはイベントコースがなくなり、それぞれの定められた期間の中で、1日だけはガイドがついて案内するというコースのみに変更となりました。それにより、なかなか周知が行えずに参加者が減少しました。さらにH30からは、開催の告知がネットのみになる予定です。このようにJR側の体制や作業の簡略化が進んだために、今後も参加者の減少が懸念されます。

しかしながら、駅からハイキングは継続していきたい事業でもありますし、清川歴史公園整備に合わせてのイベント等も行っていきたいと思っております。

【委 員】 駅からハイキングは駅からということで、JRと連携していると思うが、駅さらにこだわらず町のやり方でいろいろなイベントを開催できるのではないかと。また、歩く

ことはすごく体にいいことで高齢者の方の参加が望まれるので、ターゲットにわかりやすいチラシや広報等でたくさんの人に見てもらえる方法を考えてはどうか。

【観光物産係長】 独自のチラシや広報等で周知はしているが、まだまだPR不足かと思えます。年代ごとのイベント等も検討していきたいと考えております。

【委員】 今まで人気のあったコースについては、引き続き開催するなど集客に努めてほしい。

【会長】 大山の新酒まつりが有名だが、余目にも酒蔵があるので、イベントを開催してはどうか。

【商工労働係長】 一店逸品まつりに合わせて、飲み比べが出来るイベントを開催する予定です。

【会長】 駅からハイキング等は町内の方がターゲットなのか。

【商工観光課長】 駅からハイキングは町外の方がターゲットだが、ガイドがついてコースを回ると今まで知らなかったことが知れたりするいい機会なので、ぜひ地元の方々からも参加してもらいたいと思っています。ただ、なかなか参加していただけていない状況です。

【委員】 観光と交流人口の数値についてみると、スーパーや飲食店等の人数の把握がされていない。これについては事業所等に協力をもらって交流人口に入れてはどうか。人手不足については、物品販売や介護等、ほとんどの業種で人が集まらない状況にある。他地域では海外から人を呼んでいるところもあるので、空家を活用しながら、海外の方々を呼び込むことはできないか。

【観光物産係長】 基準に則って、観光交流人口を抑えているところがあります。ご提案頂いたのは、商業ベースの交流人口なので、取り組む予定は今のところはございません。町では県の数値にプラスして、町営施設等の数を足しているのです、県の基準からかけ離れない程度に今後もカウントしていきたいと思えます。

【新産業創造係長】 ※配布資料に基づいて説明。現状としては、オープン時と比較して来館者数は減少しています。オープンして2～3年ということもありますし、現状を見ながら、来客集客に努めておりますので、計画通りの数値を今後も目標値として考えています。

【商工労働係長】 ※配布資料に基づいて説明

【委員】 今年、地元就職・進学した人数はどれくらいか。

【委員】 就職を希望した方は庄内地域では900人います。その内、実際庄内地域で就職した608人なので、だいたい2/3となっています。昨年度は大体7割だったので、若干少なくなっています。

●企業課

《出席者》

- ・石川善一企業課長
- ・高田伸下水道係長
- ・高山直志営業推進係長

《ヒアリング内容》

導入にあたって金利をつけない分割支払いが出来るようにするなど、費用負担を軽減しながら、下水道等水洗化率の上昇を図ること。

自分の家の状況が白ガス管なのかどうか分からない方々もいると思われる。昭和〇〇年以前の家は多い等、具体的な内容を示しながら周知をした方がよい。

また、いざ交換をしようと思っても業者の数が限られているため、普及に向けたその対策等は講じているか。白ガス管の本数の把握の仕方等も伺いたい。

【会 長】 前もって文書を出しておりますので、それに基づいて説明をいただきたい。

【企業課長】 分科会からの質問・意見を承っていた2点について、担当係から説明させていただきます。最初に白ガス管関係の説明をいたします。

【営業推進係長】 住宅の敷地内に土の中に埋まっている鉄の管を白ガス管と呼んでいます。それが土の中にずっと埋まっていますと錆びて来て、ガス漏れが発生しやすくなるということで、交換を促しています。お配りしている資料は、個別に対象者を訪問する際に渡している資料になります。ご意見がありました「自分の家が白ガス管かどうか分からない方々もいると思われる」ということに関しては、該当している方々に個別訪問という形をとって対応しています。全体で対象は2,500件程ありますが、平成25年度から訪問しはじめ、今年度で84%訪問し終えております。来年度で全ての対象者を周り終える予定です。業者の数につきましては、資料にあるとおりです。業者が不足しているという声は、今までこちらには頂いていない状況です。

【会 長】 町の広報と一緒に、企業課通信が来ているが、費用については業者に見積をとってみなければわからないということになるのか。どの地点から自分の費用負担になっているかわからない。

【企業課長】 水道は本管以降全てお客様負担になります。ガスは敷地境界からお客様負担になります。季刊誌として、年4回企業課通信を出しているが、それらの内容についても掲載させていただいております。

【営業推進係長】 資産区分は、3年に1回ある法定のガス機器点検の際に、資料をお配りしています。

【委 員】 白ガス管からの切り替え時期はだいたいいつぐらいか。

【企業課長】 白ガス管自体は土中埋設が問題で、ガス事業法で平成8年に土中埋設が禁止されたので、それ以前は使われている可能性があるということになります。

【委 員】 白ガス管の交換の費用負担が少なくなるよう、ガス料金に上乘せするような割賦方式で工事費を支払うことはできないのか。

【企業課長】 それはできない。ガス事業の考え方として、工事は前受金をもらうことになっています。ただし、20万円以下であれば、お客様と協議をして債権の保全が可能であれば、工事完了後の収納が可能ということになっています。

【委 員】 上下水道についても同じ考え方か。

【下水道係長】 そのような考え方をすると、料金に上乗せする形になりますので、当課の事務作業も煩雑になり、お客様もなぜ上乗せされているか分からなくなる可能性もあるため、基本的には、分割という考え方はありません。

【企業課長】 ガス自体は先ほどのとおり、分割は難しい。上下水道は違う法律ですが、それをやり始めると、工事の料金を受け取るのは業者、ガスの使用料金は町となり、町が工事費の立替え払いもできないので、難しいと思います。今、町の制度としてあるのは、持家祝い金がございますので、そちらを活用していただければと思います。

水洗化率の向上については、料金負担の問題よりも、工事料金の問題があると思います。

【会 長】 水洗化率の目標を100%とするのは、高齢者の一人暮らしが増えてきている中で、それは難しいか。

【企業課長】 難しいと思います。

【委 員】 白ガス管の案内方法について、壊れてから直すのは時間がかかるというケースはあるのか。もしあるとすればその事例等を紹介して啓発していくという形はどうか。

【委 員】 自分の家が壊れた時に直したら、業者とのやりとりが進まず時間がかかったということがあった。業者で工事が重なったりするとうまくまわるかどうか懸念されるので、この事業を進めてもスムーズに作業が進むだけの体制を作ってはどうか。

【企業課長】 壊れてからとなると、時間もかかりますし、大変だと思いますので、早めに交換を行っていただければと思います。

【会 長】 白ガス管の交換が完全に進む等、目標値に向けてぜひ取組を進めて頂ければと思う。

## ●農林課

《出席者》

- ・富樫薫農林課長
- ・齋藤克弥農産係長

《ヒアリング内容》

農業生産額が目標値との乖離があるため、今後達成に向けての取組内容等を伺いたい。

また、花き生産額の増額を図るため、品種についても増やしていく必要があると思われる。しかし、以前から花きの生産をしている農家では、現在、土壌問題が発生していると聞いている。今後、品質維持や出荷可能な生産数を上げながら、品種拡大を行っていくための対策等は考えているか。

道の駅しょうないが施策指標に入っていないが、目標値等設定できないか。

【会 長】 前もって文書を出しておりますので、それに基づいて、考え方や今後の方向性等について説明をいただきたい。

【農林課長】 生産額については、本町の場合、米が中心になっているので、米価の影響を受けています。それに加えて園芸振興にも取り組んでいる訳ですが、花の場合だと連作障害や後継者の不足や高齢化で辞めていく方もいらっしゃいます。全体の農業生産額の捉え方については、国で出している推計値をあげていますが、正確に生産額をどうやって捉えていったらよいか悩んでいるところです。

【農産係長】 花き生産額の増額については、年々、病害や気候等の影響で減ってきてい

る状況です。そのような背景がある中で、昨年、大田花き市場の視察をし、その場で新しい品種に取り組んでいく事が必要だという話がありました。それを受けまして、平成30年度から実証圃場をやってみようという事業を予算化しました。トルコギキョウになると思いますが、庄内町に適した品種は何かということについて、探っに行こうとしています。成果を得るために、関係機関と十分な話し合いをして行きたいと思えます。

【会 長】 道の駅についてはどのように考えているか。

【農林課長】 総合計画に数値はないが、総合戦略に数値を上げています。売り上げとしては、今年度8000万を超える見込みです。来客の状況等を見ても、商品の数や種類を増やせばまだまだ売れると思えますので、組合の方々と話をして、目標等について決めていきたいと思えます。

【委 員】 試作の種はすでに業者から来たりするが、あまりうまく進まず、費用を自己負担している状況なので、花き振興会全体で取り組んでいければと思う。ストック→トルコギキョウの順に植えるので病気が発生していると思う。それらにこだわらず、植えるものを代えていいのではないか。農協は2つある訳だが、町全体として進めていくものを示してもらえればありがたい。土壌障害についても、対策として消毒を行っているが、高齢者にはやり方や体力的に難しいと思う。また1回の消毒に15万くらいかかるので、費用に對しての助成をお願いしたい。

【会 長】 就農して5年くらいでも連作障害が出てきている方もいるようだ。周年でまわしているとビニールハウスのビニールをはがさないで、どうしてもそういったことがでくるようだ。

【委 員】 花に限らず、例えば最上地方だとアスパラをやっていたりするので、町全体でこの品目でというものがあればいいと思う。

【農林課長】 役場からこの品目に取り組むと決めづらいところはあるが、関係機関と話しながら、進めていきたいと思えます。

【委 員】 食育の取組の1つとして、地元食材を使った給食を実施するためにふるさと納税等を活用してはどうか。

【農林課長】 メニューについては、教育委員会と連携が必要となりますが、生産者の団体との話し合いの機会を捉えて、意見は取り入れていきたいと思えます。

4 その他

5 閉 会

(15 : 30)